

法人名 :

公益財団法人 あきた移植医療協会

設立年月日 平成7年3月29日

1 法人の概要

代表者職氏名	理事長 羽刹友則	基本財産等	137,790千円	県出資等額及び比率	60,004千円	(43.5%)	所管部課名	健康福祉部保健・疾病対策課
設立目的	臓器移植及び組織移植の推進を図るため、臓器及び組織の移植等に関する知識の普及啓発と臓器移植及び組織移植のための諸条件の整備、援助等を行い、もって県民の健康と福祉の向上に寄与することを目的とする。							
事業概要	(1)臓器移植及び組織移植に関する知識の普及啓発、(2)臓器及び組織の機能不全の予防に関する知識の普及啓発、(3)眼球提供者及び角膜移植希望者の登録、(4)眼球の摘出、保存及びあっせん、(5)組織適合性検査に係る費用の助成、(6)臓器及び組織提供者に対する敬弔費の支給、(7)医療機関等に対する臓器及び組織の摘出に係る費用の助成、(8)臓器移植及び組織移植を推進するための調査、研究等							
関連法令、県計画	臓器の移植に関する法律、秋田県医療保健福祉計画							
役員数 (R7.7.1現在)	理事 常勤 10	監事 常勤 2	評議員 常勤 9	計 常勤 0	職員数 (R7.4.1現在)	正職員 2	出向職員	臨時・嘱託 計 21

2 法人の行動計画(令和4 ~ 7年度)

県関与のあり方	継続	経営状況	健全化が必要	取組の方向性	・要経営改善	・公益的事業の安定実施
目標	経営の安定化に向けて、賛助会員を確保して会費収入の増を図るとともに、法人のあり方等について検討していく。 移植医療に関する啓発及び知識の普及について、継続して取り組んでいく。					
取組	経営の安定化に向けて、賛助会員を確保する。 【目標】賛助会員の確保 各年度 210会員 臓器移植の普及啓発を図るため、賛同する企業・団体を「グリーンリボンサポーター」に認定し、自主的な普及啓発活動を促進・支援する。 【目標】グリーンリボンサポーターの認定 各年度90団体					

3 財務

正味財産増減計算書

(単位:千円)

区分	令和5年度	令和6年度
経常収益	17,580	18,023
基本財産・特定資産運用益	674	540
受取会費・受取寄附金	2,688	1,982
受託事業収益	6,687	6,950
自主事業収益		300
受取補助金・受取負担金	1,271	1,991
その他の収益	6,260	6,260
経常費用	17,286	18,976
事業費	13,688	15,298
管理費	3,598	3,678
人件費(事業費分含む)	13,204	13,805
当期経常増減額	294	953
経常外収益		
経常外費用		
当期経常外増減額		
当期一般正味財産増減額	294	953
当期指定正味財産増減額	5,812	5,926
当期正味財産増減額合計	5,518	6,879

貸借対照表

(単位:千円)

区分	令和5年度	令和6年度
流動資産	4,322	3,163
固定資産	153,620	147,694
資産計	157,942	150,857
流動負債	485	279
短期借入金		
固定負債		
長期借入金		
負債計	485	279
指定正味財産	153,620	147,694
うち基本財産充当額	137,790	137,790
一般正味財産	3,837	2,884
うち基本財産充当額		
正味財産計	157,457	150,578
負債・正味財産計	157,942	150,857

<主な経営指標>

項目	令和5年度	令和6年度	増減
経常収支比率 (経常収益 ÷ 経常費用)	101.7%	95.0%	6.7
流動比率 (流動資産 ÷ 流動負債)	891.1%	1133.2%	+ 242.1
自己資本比率 (純資産計 ÷ 負債・純資産計)	99.7%	99.8%	+ 0.1
有利子負債比率 (有利子負債 ÷ 純資産計)			

端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

<退職給与引当状況(単位:千円)>

要支給額	引当額	引当率(%)
0	0	-

中小企業退職協会制度に加入している。

県の財政的関与の状況(事業費補助・委託を除く)

(単位:千円)

区分	令和5年度	令和6年度	支出目的等
年間支出			
年度末残高			

法人名：

公益財団法人 あきた移植医療協会

自己評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況		2 経営状況	
【令和6年度実績】 賛助会員の確保：法人102会員（新規3、退会1、倒産1）、個人97会員（新規21、退会2）、計199会員（前年度：179会員、目標：210会員） グリーンリボンサポーターの認定：新規2団体、計74団体（前年度：72団体、目標：90団体）		【令和6年度実績】 経常収益：18,023千円（前年度：17,580千円） 経常費用：18,976千円（前年度：17,286千円） 指定正味財産期末残高：147,694千円（前年度：153,620千円） 一般正味財産期末残高：2,884千円（前年度：3,837千円）	
【自己評価】 令和5年度で目標値を達成したことから、令和6年度に目標の見直し（増加）を行った。 新規会員については、個人を中心に大幅に増加しており、街頭キャンペーンでの周知や対話が形となつたものの、目標には届かなかった。今後もイベントや行事等で、県民との対話を進め目標の達成に努めたい。 グリーンリボンサポーターについては、戸別訪問を行い賛同は得られるものの、届出書の提出に至らないことから、認定の伸びは低調であった。きめ細かな個別訪問に加え、訪問後のアフターフォロー（電話連絡や情報誌の提供等）を徹底していきたい。	評価 B	【自己評価】 マイナス金利が解除され幾分金利は付いてきたものの、運用益が大きく増額することはなく、指定正味財産を取り崩しながらの厳しい運営となっている。 収益の大幅な改善が見込めない中で、「協会のあり方」等について県とも長らく協議を続いているが、実効性のある案にたどり着けないことから、まずは協会自らができることで、少しでも経営の安定化に資するよう、近年の業務改善（電算化、効率化）をはじめ、令和7年度より職員1名の減員を実施した。まずは、2名体制でこれまで以上のパフォーマンスを目指して取り組んで行くと同時に、引き続き法人のあり方を検討していく。	評価 C

所管課評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況		2 経営状況	
【所管課評価】 目標の達成には届かなかったものの、地道な活動により令和6年度も新規賛助会員を獲得できており、結果が出ている。 グリーンリボンサポーターも2団体ではあるが増えており、戸別訪問では賛同も得られているので臓器移植の知識の普及について一定の結果が出ている。 今後は、昨年度の臓器提供3事例を積極的に活用した普及啓発に努めていただき、目標の達成に取り組んでいただきたい。		【所管課評価】 手書き経理のシステム化、管理業務の電算化等に加え、令和7年度からは職員を1名削減するなどの業務改善を実施している。 国は、昨年度よりあっせん機関の強化に向けた組織の新設やコーディネーター等の業務分割等を検討しており、それらの状況を踏まえながら県としては引き続き「協会のあり方」を関係者間で協議していくため、協会としても経営改善に向けた努力をしていただきたい。	

委員会評価

総合評価	法人全体の取組・運営状況に関するコメント
B	行動計画の目標は達成していないものの、令和6年度に目標値の上方修正を行った点、個人を中心に新規会員が大幅に増加している点を踏まえると、取組については評価できる。 引き続き指定正味財産を取り崩しながらの運営となっていることから、経営状況の健全化に取り組むとともに、今後の「協会のあり方」に関する検討を進めてもらいたい。

【委員からの提言】

経営状況の健全化に当たっては、管理業務の電算化等による費用の削減のほか、寄附金収入などの収益の増加にも取り組む必要があると考える。 寄附金収入に関しては、協会の活動内容や当該寄附金が寄付金控除の対象になることを十分にPRするなど、協会の活動に賛同する個人からの寄附を積極的に募るような取組を期待する。

法人の対応方針	所管課の対応方針
街頭PRや市民公開講座、種苗交換会等あらゆる機会で寄附を募るほか、賛助会員の増加を図ることで、恒常的な資金確保に努める。 広報誌やウェブサイトにより、寄附金が税額控除の対象となることを積極的にPRする。	賛助会員の増加に向け、所管課としても、各種イベントなどを通じて法人の活動が県民に理解されるよう、引き続きサポートを行う。 今後の国の動きを注視しながら「協会のあり方」について引き続き検討を進めていく。